

事業連携へ情報交換

大館市企業懇談会

洋上風力など事例紹介

に進出した企業、条例指定工場、大館工業振興会員などが参加した。

石田会長は「大館の礎は産業で、地域に根差した仕事があり、若い世代が働いてい

る。一番の課題は人手不足で、新しい挑戦ができない。地元企業と行政が連携し、外から人材を獲得したり、シェアリングする仕組みづくりにも取り組みたい」と述べた。



小滝電機が取り組んできた改善と今後の挑戦

株式会社小滝電機 代表取締役

事例紹介が行われた企業懇談会（北秋くらぶ）

事例紹介では、秋田職業能力開発短期大学校の中村雅英校長が、本県沖で計画されている洋上風力発電について説明。「全国10カ所の促進区域のうち、半数弱の4カ所が秋田にあり、本県がいかに進んでいるかが分かる。洋上風力はいくつかの産業と関連し、これならできるという分野を見つけ、県内企業に積極的に手を挙げてほしい」と呼びかけた。

小滝電機製作所の中村英明社長は、車載用LED（発光ダイオード）ランプ基板など主力製品や生産ラインを紹介。新技術の開発などにも触れ、「コロナ禍は半導体不足などで苦しい思いをしたが、新たな事業を生み出そうとチャレンジし、23年度の年度別生産数は過去2番目に回復した。大館というローカルから世界へ発信する『グローバルイノベーション』を掲げ、チャレンジを続けたい」と述べた。

大館市企業誘致促進協議会（会長・石田健佑市長）の企業懇談会が18日、北秋くらぶで開かれ、工業団地に進出した企業や関係機関・団体の代表ら約50人が事業連携に向けて情報交換した。

一井田や花岡、釈迦内、岩瀬などの工業団地、産業団地